

7 キャンパス等充実に関する事項

1 施設・設備・備品等について

本学における施設・設備・備品等は、長期計画による教育・研究・社会貢献等の諸政策に則し、長期財政計画と各キャンパスの立地条件を踏まえながら計画的に整備していくこととしている。各キャンパスとも、設置学部の特性、地域性、キャンパスの歴史等を勘案しつつ、次の視点にもとづき整備を行った。

- ・本学が展開する多様な教学活動を支え、その効果が十分あげられるよう整備する。
- ・学術研究・諸科学の発達に十分対応し得るよう、計画的に整備する。
- ・「課外活動基本方針」に基づき、学生の意見を聞きながら計画的に課外活動施設等を整備する。
- ・施設・設備等を地域社会に開放し、地域社会に貢献するキャンパス創りを目指す。
- ・大学構成員の意見を聞きながら支援施設・設備を充実し、これらを含めたキャンパスアメニティの向上に努める。
- ・すべての施設のバリアフリー化を目指す等、障がいを持つ者にとっても快適な環境を整備する。
- ・教学活動や学生生活を積極的に支援する立場から、施設・設備・備品等の管理責任体制を明確にし、適切な維持・管理に努める。

1 深草学舎における施設・設備・備品等の整備

●新棟の建設及び研究室等の整備

深草学舎における施設整備事業として、政策学部開設に必要な施設であり、1号館の代替施設となり得る教室を中心とする新棟（延べ床面積約15,000㎡）の建設に着手した。さらに、政策学部開設に向けた他の対応として、6号館及び8号館ピロティを改修し、個人研究室や共同研究室を整備したほか、2号館に語学教室を増設した。

●教室整備事業

多様な授業形態に対応するため、2号館及び4号館の語学教室、演習室の一部について、可動式の机・椅子に入れ替えた。

●教育研究・課外活動等の環境整備

深草図書館什器のリプレイスをはじめ、教育研究・課外活動等の環境を整備した。また、南大日グラウンドを整備し、テニスコート及びハンドボールコートを設置し運用を開始した。

●施設・設備の更新

3カ年事業の最終年度として、経年劣化が著しい紫光館の空調設備を改修した。また、2号館及び4号館の照明器具更新をはじめとする省エネルギー推進改修工事を実施した。さらに、中央監視システム（4カ年計画初年度）を改修し、合理的で効率の良いエネルギー管理（BEMS）の導入をNEDOの補助金を得て実施した。

●感染症予防対策工事

感染症予防対策（4カ年計画の2年目）として実施している各洗面所の自動水栓化及びハンドドライヤーの設置を行った。



2 大宮学舎における施設・設備・備品等の整備

●「龍谷ミュージアム」の建設

2011年4月のオープンを目指し、龍谷ミュージアムの建設に取り組んだ。建物は2010年8月に竣工し、引き続き展示工事を進めた。

●「白亜館」の建設

清風館南校地に仏教研究の拠点となる研究新棟「白亜館」を建設した。

●教育環境の改善工事

経年劣化が著しい東翼103号教室を改修し、音響効果をはじめとする機能の改善を図ったほか、東翼3階演習室の防音扉を設置する等、教育環境の改善を行った。

●感染症予防対策工事

感染症予防対策（4カ年計画の2年目）として実施している各洗面所の自動水栓化及びハンドドライヤーの設置を行った。

3 瀬田学舎における施設・設備・備品等の整備

●省エネルギー対策工事

3号館の照明器具を省エネルギー対応の器具に改修するとともに、各研究室及び事務室に網戸を設置し、省エネルギーの推進を図った。

●学習環境改善対策工事

3号館101及び102講義室の給排気設備を改修し、快適な学習環境の整備を図った。

●理工学部・理工学研究科の教育研究装置及び特別研究設備の整備

理工学部・理工学研究科の教育・研究に使用される「理工学部専門情報処理教育装置」及び「超先端微細電子デバイス特性評価装置」を調達・整備した。

●私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省補助金事業）に係る備品の設置

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新技術開発による文化財保存・修復科学研究」に係る研究機器・設備として、分光反射特性計測装置及びFTIRスペクトル分析装置を調達・整備した。

●食堂・喫茶厨房機器の整備

瀬田学舎厚生施設（青雲館・青志館・RECホール）の食堂・喫茶厨房機器を更新し、厚生施設の充実を図った。

4 その他の施設・設備・備品等の整備（各学舎以外の施設）

●アバンティ響都ホールの整備

京都駅前のアバンティホール（京都アバンティビル9階）を京都市から購入し、大学の新たな情報発信拠点として運用を開始した。

●セミナーハウス「ともいき荘」の改修工事

セミナーハウス「ともいき荘」について、消防署及び保健センター等の指導を踏まえ、安全性の向上を目指した改修工事を行った。

2 情報システム関係について

IPネットワークを介した情報教育をさらに展開するため、基幹ネットワークの更新を実施した。構築に当たっては、技術的に安全であることを前提として効果的・効率的かつコストパフォーマンスを考慮したネットワークを構築した。

利用者と大学を結び情報コミュニケーション基盤整備を進めるため、2011年9月末に契約満了を迎える学生のActive!Mailの今後のあり方について、Gmail等のクラウドサービス（外部リソース）の活用を試行的に導入し利用できるよう調査を進めた。また、2009年度から要件定義を確定するために検討を重ねてきた事務システムのリプレイスは、選定業者を決定し情報の有効活用を図るための開発を進めた。

1 基幹ネットワークの整備

●龍谷大学基幹ネットワークの構築（更新）

夏期休暇期間を利用して基幹ネットワーク・スイッチを中心とするネットワーク装置の入れ替え事業を実施した。今回構築した基幹ネットワークの主な特徴は、今後、利用が増えることが予想されるクラウドサービスを視野に入れ、ネットワークの通信量増大への対応とサーバー機器に仮想化技術を用いることによる物理的スペース及び消費電力の低減、そしてキャンパスに散らばる無線LANアクセスポイントを集中コントロールできるようにし、機動的な設定変更を可能にした点である。これらのことから、本学の情報教育及び研究活動がより一層、円滑に行われることになった。

●クラウドサービスの導入

インターネット上でサービスを提供しているコミュニケーションツール（クラウド）システムである「Google Apps」を利用できるよう、セキュリティやウイルス対策に留意しつつ、事務職員を対象に取り組んだ。2011年度以降、学内構成員の統合的なメールシステムの拡充を図り、順次学生や教員にも対象範囲を広げていく。

2 情報教育環境の整備

●マルチメディア教育環境整備

多様なメディア機器を利用した効果的な授業の推進と、継続的な情報教育基盤整備を図るため、2007～2010年度の4カ年事業の最終年度として、深草学舎1号館、大宮学舎北翼、瀬田学舎7号館の普通教室マルチメディア教育環境の整備を行った。また、教員から要望の高かった、深草学舎2号館4階の各教室、瀬田学舎3・4号館の語学教室のマルチメディア化を行った。

●情報教育リテラシー支援プログラム

学生の情報リテラシー能力を把握することを目的として、新入生を対象に「情報理解度調査」を実施した。この調査結果から学生ニーズを正確に把握し、ニーズに応じた情報リテラシー講座（ワード、エクセル、パワーポイント等）を提供できるよう努めた。



3 事務システムの整備

●事務システムのリプレイス

基幹事務システムリプレイスにあたっては、「学事系（教務系）システム」（2012年度利用開始）と「法人系・研究系システム」（2011年度から段階的に利用開始）に区分し、各々業者選定を行い、システム開発を開始した。

●学生証のICカード化

学生証ICカードを活用した新たなサービスの導入を目的として、学生証をICカード化することの検討を行った。その結果、在学生は2011年3月に現在使用している磁気カードからICカードに切り替えるとともに、2011年度入学生は入学時に配付し、学生証を利用した新たな学生サービスの向上に向けて鋭意取り組んだ。